

SSI 学会誌編集委員会 2018 年度第 3 回委員会議事録

日時：2019 年 3 月 10 日（日）11:00-12:22

場所：東京大学本郷キャンパス・情報学環 6 階会議室

出席者（敬称略）：伊藤賢一，小笠原盛浩，河島茂生，榎俊吾，佐久間勲，杉山あかし
（skype），高橋徹，塚原康博，野田哲夫

欠席者（〃）：天笠邦一，小川明子，小寺敦之，加藤尚吾，加藤由樹，金山智子，河井延
晃，北村順生，嶋崎真仁，土屋祐子，松本早野香，山本仁志，叶少瑜

【報告事項】

1. 学会誌発行状況について

学会誌発行状況は次の通り。

和文誌

6 巻 3 号（2018 年 9 月発行済）

→ 講演記録，論文 4（特集：ジェンダー3，研究 1），書評 1

7 巻 1 号（2018 年 12 月発行済）

→ 論文 3（原著論文 3），書評 2

7 巻 2 号（2019 年 3 月発行予定）

→ 論文 3（原著論文 2），書評 2

7 巻 3 号（2019 年〇月発行予定）

→ 論文 4（？），書評 1

8 巻 1 号（2019 年 6 月発行予定）

英文誌

Vol. 11（2018 年 9 月発行済）

→ 原著論文 1，翻訳 1

Vol. 12（2019 年 9 月発行予定）現在の Call for Papers は 3 月 22 日締め切り

2. 査読状況について

以下の査読状況を確認した。

- ・ 2018-02, 07, 10, 13, 15, 21～23, 27 は掲載無し
- ・ 2018-04, 09, 11 は 7 巻 1 号に掲載済
- ・ 2018-05, 06 は 7 巻 2 号に掲載予定
- ・ 2018-12, 17, 18 は 7 巻 3 号に掲載予定
- ・ 2018-14, 16, 20, 24～26, 2019-01～05 は継続中

3. その他

特になし

【審議事項】

1 投稿規定の見直しについて

・和文誌への投稿論文 2018-21 は、本学会大会論文集の論文に加筆して投稿しているが、そのことを論文中では明記せず、共著者の一人が大会論文をすでに「査読付論文」として業績データベースに登録していることから「二重投稿」にあたる可能性がある、として不採択になった。

その一方、「社会情報学」投稿要綱第3条第4項には「投稿原稿は、本会の主催、共催するシンポジウム、講演会、研究会、分科会等で公表したものが望ましい」とあり、大会でも座長やコメンテーターは大会報告をもとに学会誌への投稿を促す案内もしている。

他学会では、「未発表論文」の範囲や「二重投稿」と見なされる条件などをウェブページ等で周知するなど注意喚起しているのので、本学会でも投稿規定（投稿要綱）を見直す必要があるのではないかと、との指摘を受けて意見交換を行った。

・この件に関して学会・専門分野によって慣行はさまざま、学会報告の要旨を公開している以上は、それとの違いや新奇性を明確に示す必要があるという場合もあれば、学会報告は業績と考えないためまったく同じでも問題ない、とする場合もある。さまざまな分野がある本学会では、扱いについて何らかの統一した基準が必要であるので、理事会に上げて意見を聴取することとした。

2. 今後の編集長・編集担当・特集について

2-1) 和文誌『社会情報学』編集長（受付担当）一覧

5巻（2016年度）：岡田勇編集長／伊藤賢一副編集長

6巻（2017年度）：伊藤賢一編集長／河井延晃副編集長

7巻（2018年度）：河井延晃編集長／小笠原盛浩副編集長

8巻（2019年度）：小笠原盛浩編集長／小寺敦之副編集長

9巻（2020年度）：小寺敦之編集長

・小寺委員（東洋英和女学院大学）に8巻副編集長・9巻編集長をお引き受けいただいたことを報告した。

2-2a) 和文誌『社会情報学』編集担当一覧

6巻2号（2018年5月発行）：大國充彦委員

6巻3号（2018年9月発行済）：金山智子委員

7巻1号（2018年12月発行済）：高橋徹委員

7巻2号（2019年3月発行予定）：嶋崎真仁委員

7巻3号（2019年5月発行予定）：小川明子委員

8 卷 1 号 (2019 年 6 月発行予定) : 河島茂生委員

8 卷 2 号 (2019 年 12 月発行予定) :

8 卷 3 号 (2020 年 3 月発行予定) :

- ・ 8 卷 2 号, 同 3 号の編集担当について何名か候補者を挙げてもらい, 伊藤委員長代行が打診することとした。

2-2b) 英文誌 *Journal of Socio-Informatics* 編集長一覧

Vol. 10 (2018 年 5 月発行) 野田哲夫委員 / 小笠原盛浩委員

Vol. 11 (2018 年 9 月発行予定) 小笠原盛浩委員 / 北村順生委員

Vol. 12 (2019 年 9 月発行予定) 北村順生委員 / 土屋祐子委員

Vol. 13 (2020 年 9 月発行予定) 土屋祐子委員 /

2-3) 特集企画について

4 卷 3 号 : 特集「選挙」

5 卷 1 号 : 特集「世論」

6 卷 3 号 : 特集「ジェンダー」

8 卷 1 号 : 特集「AI / ネオ・サイバネティクス」担当 : 河島茂生委員

- ・ 今後の特集について意見交換を行ったところ, 「計算社会科学」, 「フェイク・ニュース」, 「仮想通貨」, 「スポーツ報道」などの候補がでた。いずれも重要なテーマであり, 今後も引き続き検討することとなった。

3. その他

3-1) 著作権の扱いについて

- ・ 7 卷 1 号編集担当の高橋委員より, 論文中で使用している画像等の著作権について, 投稿者が確認していないケースがある, と指摘があった。投稿要綱・執筆要領等に記載することが望ましいので, 検討することとした。

3-2) 原稿受理日 / 掲載決定日の記載について

- ・ 同じく高橋委員より, 他学会では「原稿受理」や「掲載決定」の日付を入れていることが多く, 本学会誌でも検討すべきではないかと問題提起があり, 審議の結果, 可能であれば現在校正中の 7 卷 2 号から記載することとした。

3-3) 「展望・ノート」の扱いについて

- ・ 「原著論文」「研究」の他に「展望・ノート」があり, 投稿要綱・執筆要綱にも記載があるが, 「投稿申込書」には「原著論文 / 原著論文だが, 「研究」に推薦された場合は「研究」として再投稿可能 / 研究」から選ぶことになっており, 「展望・ノート」がない。会員

からこの件に関して問い合わせもある。

- ・「投稿申込書」を修正することとした。

3-4) 原著論文と研究の違いについて

- ・河島委員から、原著論文と研究の違いについて、明確化すべきではないかとの問題提起があった。
- ・学会ウェブページには、以下の記載があり、「研究」についてのみ解説があるが、「原著論文」には記載がない。

SSI ウェブページ：「論文募集のお知らせ」より抜粋

<http://www.ssi.or.jp/journal/index.html>

2. 公募論文カテゴリーは「原著論文」「研究」と「展望・ノート」の3種です。
3. 「研究」は、萌芽的または試論的性格をもち、実証性、問題提起、視点、アイデア等に優れたものがあり、今後の発展性が十分期待できる研究論文、あるいは重要なテーマについて内外諸理論を広く検討し、概観する論文を意味する。
4. 「原著論文」と「研究」（最大 14 ページ）は同格の論文として位置づけられ、最低二人の査読者の採択判定に基づき採否が決定されます。「原著論文」と「研究」の採択率に関しては一定の採択率を維持するように努めます。
5. 「原著論文」として投稿された論文が内容によっては「研究」として採択されることもあります。

- ・「原著論文」の定義（解説）について、今後検討することとした。

3-5) 編集委員の負担軽減について

- ・昨年より、特定の大学院の院生からの投稿が急増したため、審査担当委員や査読者の探索が困難となり、編集長・副編集長の負担が過重になっている。ある程度質の高いものを投稿してもらうように注意喚起する、あるいは、査読プロセスに進む前に予備審査のような手順（「シニアエディター」のような役職を設け、査読にすすむ前にリジェクトすることを行っている学会もある）の変更ができないか、問題提起があり、意見交換を行った。
- ・協議の結果、大学名には触れずに、多くの投稿が相次ぎ編集委員会の負担が過重になっているので、より質の高い論文を投稿するように院生を指導してほしい、とニューズレターで注意喚起を行うことを、理事会に提案していただくこととした。

3-6) 編集委員の補充について

- ・2019年6月で学会誌編集委員会の委員長が交替し、何人かの委員は任期が切れるはずなので、編集委員候補をできるだけあげてもらうこととした。